

電磁気学 III 試験問題

1 電気双極子放射

真空中で単振動している電荷 q の荷電粒子から放射される電磁波について、以下の問いに答えよ。以下、真空の誘電率と透磁率を ϵ_0, μ_0 で、光速を c で表わす。デカルト座標 (x, y, z) の基底ベクトル e_x, e_y, e_z と、球座標 (r, θ, ϕ) の基底ベクトル e_r, e_θ, e_ϕ は、以下の関係にある。

$$\begin{aligned} e_r &= \sin \theta \cos \varphi e_x + \sin \theta \sin \varphi e_y + \cos \theta e_z, \\ e_\theta &= \cos \theta \cos \varphi e_x + \cos \theta \sin \varphi e_y - \sin \theta e_z, \\ e_\varphi &= -\sin \varphi e_x + \cos \varphi e_y. \end{aligned} \quad (1)$$

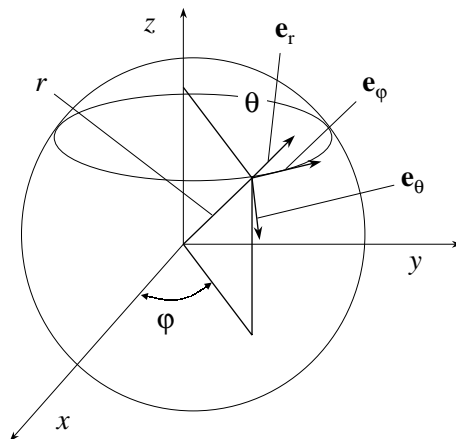


図 1: 球座標

球座標における微分演算子は以下のとおりである。

$$\text{grad } \phi = \frac{\partial \phi}{\partial r} e_r + \frac{1}{r} \frac{\partial \phi}{\partial \theta} e_\theta + \frac{1}{r \sin \theta} \frac{\partial \phi}{\partial \varphi} e_\varphi, \quad (2)$$

$$\text{rot } \mathbf{A} = \frac{1}{r \sin \theta} \left\{ \frac{\partial(\sin \theta A_\varphi)}{\partial \theta} - \frac{\partial A_\theta}{\partial \varphi} \right\} e_r + \frac{1}{r} \left\{ \frac{1}{\sin \theta} \frac{\partial A_r}{\partial \varphi} - \frac{\partial(r A_\varphi)}{\partial r} \right\} e_\theta + \frac{1}{r} \left\{ \frac{\partial(r A_\theta)}{\partial r} - \frac{\partial A_r}{\partial \theta} \right\} e_\varphi. \quad (3)$$

また、マクスウェルの方程式をみたす電磁場は、電磁ポテンシャルによって次のように表される。

$$\mathbf{B} = \text{rot } \mathbf{A}, \quad \mathbf{E} = -\frac{\partial \mathbf{A}}{\partial t} - \text{grad } \phi. \quad (4)$$

1.1 微分演算 (5 点)

デカルト座標において、 $\text{grad } r$ を計算せよ。ただし $r = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2}$ である。

1.2 電磁ポテンシャル (20 点)

z 軸上を振幅 l で $z = l \sin \omega t$ のように振動する荷電粒子による、観測点 (x, y, z) における電磁ポテンシャルは、

$$\mathbf{A}(\mathbf{x}, t) = e_z \frac{\mu_0 q l \omega}{4\pi r} \cos \omega(t - r/c), \quad (5)$$

$$\phi(\mathbf{x}, t) = z \frac{\mu_0 q l \omega c}{4\pi r^2} \cos \omega(t - r/c), \quad (6)$$

と表される。このとき、電磁ポテンシャル $\mathbf{A}(r, \theta, \varphi, t) = (A_r, A_\theta, A_\varphi)$, $\phi(r, \theta, \varphi, t)$ を球座標表示せよ。以下、必要であれば、 $l \ll 2\pi c/\omega \ll r$ の関係を使ってもよい。

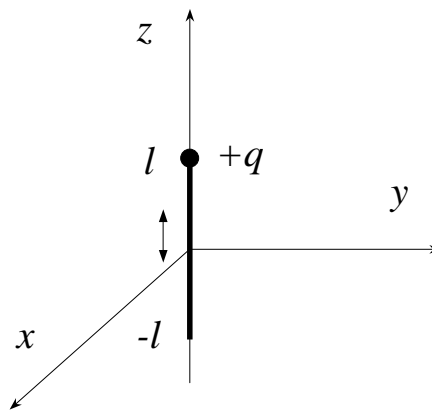


図 2: 荷電粒子の単振動

1.3 放射される電磁場 (10 点)

荷電粒子の運動によって放射される電磁場 B, E を、球座標表示で求めよ。

1.4 ポインティングベクトル (10 点)

ポインティングベクトル $E \times H$ を求め、その物理的意味を述べよ。

1.5 放射強度 (15 点)

放射電磁波強度 $[\text{W}/\text{m}^2]$ (に比例する量) の角度依存性をグラフに描け。

2 電磁波の重ね合わせ

2.1 直交して振動する荷電粒子 (25 点)

2.1.1 位相が $\pi/2$ だけ異なる場合

前問の荷電粒子に加え、電荷 q の荷電粒子を y 軸上で $y = \ell \cos \omega t$ のように振動させた。次の 2 方向に放射される電磁波の特徴を、電場ベクトルの時間変化を図示しながら述べよ。

$$(\theta, \phi) = (\pi/2, 0), \quad (\theta, \phi) = (\pi/2, \pi/2)$$

2.1.2 同位相の場合

追加する荷電粒子の振動が $y = \ell \sin \omega t$ のとき、 $(\theta, \phi) = (\pi/2, 0)$ 方向に放射される電磁波の特徴を、電場ベクトルの時間変化を図示しながら述べよ。

2.2 重ね合わせ (15 点)

マクスウェルの方程式を念頭にし、電磁波の重ねあわせが可能な根拠を述べよ。